

教会における罪



2026年7月25日 第4課



あなたがたは知らないのか。
自分のからだは、神から
受けて自分の内に宿っている
聖霊の宮であって、
あなたがたは、もはや
自分自身のものでは
ないのである。

あなたがたは、代価を払って
買いとられたのだ。それだから、
自分のからだをもって、
神の栄光をあらわしなさい。
(1コリント 6:19, 20, 口語訳)



知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。

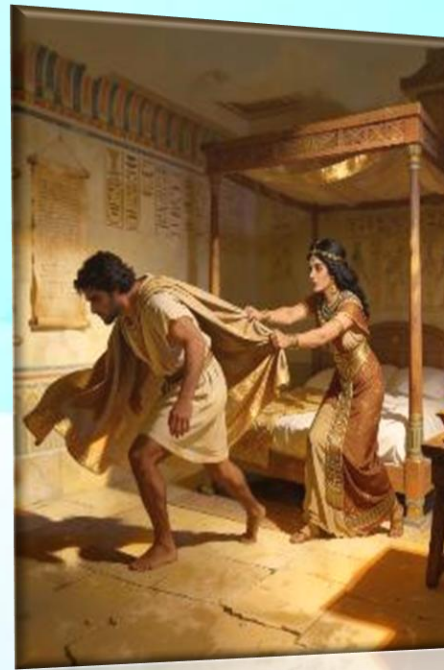
あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

(1コリント 6:19, 20, 新共同訳)

パウロはコリント人への第一の手紙の5章から7章にかけて、主にコリントの教会に深く根を下ろしていた罪、すなわち性的不品行を根絶しようと努めています。

この特定の罪に加え、兄弟間での不法行為や詐欺といった他の罪も重なり、それらは世俗の法廷に持ち込まれる事態となっていた。

パウロは明快かつ率直な言葉を用い、罪を指摘するだけでなく、その罪に対処し、再び同じ罪に陥るのを防ぐための解決策も提示しています。



教会における罪

信仰と行いの
不一致

スキャンダルへの
対処

教会の存在意義を
守る

教会で罪を犯さないように する方法

みだらな行い
に対する解毒薬

結婚と独身

教会における 罪



信仰と行いの不一致

それなのに、なお、あなたがたは高ぶっている。むしろ、そんな行いをしている者が、あなたがたの中から除かれねばならないことを思って、悲しむべきではないか。(1コリント 5:2)

コリントの教会には、「あなたがたの間には、異教徒でさえも容認しないような性的不道徳があった」(1コリ5:1)と記されています。

教会内で近親相姦の関係が存在していたことは、極めて深刻な問題であった。しかし、信徒たちがこの罪に対して嫌悪感を抱くどころか、むしろそれを容認していることを誇りに思っていたため、事態はさらに悪化した(1コリ5:2)。



その教会は主に異邦人で構成されていた。彼ら自身の良心は、近親相姦は容認されるべきではないと告げていた。さらに、聖書に対する彼らの理解も、この考えを裏付けていた(レビ18:8)。

もしその関係が罪深いものであると明確に認識されていたのなら……なぜ彼らはそれを誇りとしていたのでしょうか(1コリ5:6)。その当事者である家族は、教会内で影響力を持っていたのでしょうか。それとも、罪人に対して寛容な教会であることを誇っていたのでしょうか……？

聖書の中で明確に非難されている事柄のうち、
教会として私たちが「愛」や「受容」の名の下に
容認してしまう危険性のあるものは何でしょうか。

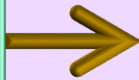
スキャンダルへの対処

その悪人を、あなたがたの中から除いてしまいなさい。

(1 コリント 5:13)

近親相姦の事件はすでに「周知の事実」(1 コリント 5:1)となっていたため、教会の評判が損なわれるのを防ぐために、早急な措置を講じる必要がありました。どのような措置を講じるべきでしょうか。

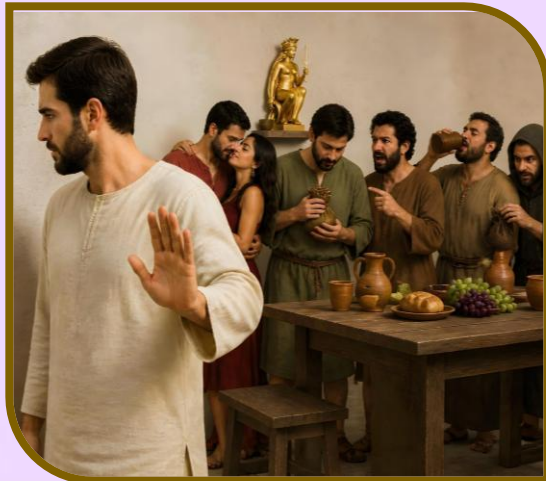
その人物の有罪か無罪かを決定する、あるいは決定しない判断を下すこと
(1 コリント 5:3)



罪人と交わってはならない。
また、その者が教会の会員として扱われることを主張し、罪を捨てようとしないう限り、その者と一緒に食事をする事さえしてはならない
(1 コリント 5:11)



その罪人を追放し、「サタン」に引き渡す。なぜなら、その罪を抱き続けることによって、彼は自ら進んでサタンのくびきの下に身を置くことを選んだからである
(1 コリント 5:2b、5a、13b)



教会による懲戒は（罪の重大さにかかわらず）、常に贖いの目的を持たなければならない。その人が自らの過ちを認識し、悔い改め、「主イエスの日に救われる」ことができるよう、その過ちを明らかにしなければならない(1コリ5:5)。



I コリント 5:1～13 を読み直してください。

5:1 現に聞くとところによると、あなたがたの間にみだらな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどのみだらな行いで、ある人が父の妻をわがものとしているとのことです。 **5:2** それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。 **5:3** わたしは体では離れていても霊ではそこにいて、現に居合わせた者のように、そんなことをした者を既に裁いてしまっています。 **5:4** つまり、わたしたちの主イエスの名により、わたしたちの主イエスの力をもって、あなたがたとわたしの霊が集まり、 **5:5** このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。 **5:6** あなたがたが誇っているのは、よくない。 **わずかなパン種が練り粉全体を膨らませることを、知らないのですか。** **5:7** いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。 **5:8** だから、古いパン種や悪意と邪悪のパン種を用いないで、パン種の入っていない、純粹で真実のパンで過越祭を祝おうではありませんか。 **5:9** わたしは以前手紙で、みだらな者と交際してはいけないと書きましたが、 **5:10** その意味は、この世のみだらな者とか強欲な者、また、人の物を奪う者や偶像を礼拝する者たちと一切つきあってはならない、ということではありません。もし、そうだとしたら、あなたがたは世の中から出て行かねばならないでしょう。 **5:11** わたしが書いたのは、兄弟と呼ばれる人で、みだらな者、強欲な者、偶像を礼拝する者、人を悪く言う者、酒におぼれる者、人の物を奪う者がいれば、つきあうな、そのような人とは一緒に食事もするな、ということだったのです。 **5:12** 外部の人々を裁くことは、わたしの務めでしょうか。内部の人々をこそ、あなたがたは裁くべきではありませんか。 **5:13** 外部の人々は神がお裁きになります。
「あなたがたの中から悪い者を除き去りなさい。」

この状況にどう対処しなさいと、パウロは言っていますか。

教会の存在意義を守る

あなたがたの中のひとりが、仲間の者と何か争いを起した場合、それを聖徒に訴えないで、正しくない者に訴え出るようなことをするのか。(1 コリント 6:1)



教会内での罪の解決方法について説明した後、パウロは、正しい指針に従わず、信者間の争いを世俗の裁判所に持ち込んだことを非難しています(1コリ 6:1-6)。しかし、パウロはさらに踏み込んで、問題の根源を突きつけます。

➡ 第一に、教会員の中に争いがあったはず(1コリ 6:7a)、もちろん、教会員が他の教会員に対して不義を働いたり、だまし取ったりすることもあってはなりません(1コリ 6:8)。

➡ 第二に、兄弟たちは、その過ちを喜んで赦さなければならない(1コリ 6:7b)。

➡ 第三に、会員の間で合意が得られない場合、教会は彼らを裁くか、あるいは仲裁を行わなければならない(1コリ 6:2)。

刑事事件でない限り(ロマ13:1-5)、教会内部の問題は内部で解決すべきである。



I コリント 5:10、11、および6:9、10に

5：10その意味は、この世のみだらな者とか強欲な者、また、人の物を奪う者や偶像を礼拝する者たちと一切つきあってはならない、ということではありません。もし、そうだとしたら、あなたがたは世の中から出て行かねばならないでしょう。

11わたしが書いたのは、兄弟と呼ばれる人で、みだらな者、強欲な者、偶像を礼拝する者、人を悪く言う者、酒におぼれる者、人の物を奪う者がいれば、つきあうな、そのような人とは一緒に食事もするな、ということだったのです。

6：9それとも、正しくない者が神の国をつぐことはないのを、知らないのか。まちがってはいけない。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、**10**貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者は、いずれも神の国をつぐことはないのである。

パウロが挙げた悪徳のリストについて考えてみてください。
なぜ彼は偶像崇拝、盗み、貪欲、恐喝といった他の罪と
並んで性的な罪を挙げているのでしょうか。

「闇や靈的な弱さを招き、私たちの初めの愛を消し去ってしまう、自分特有の欠点や罪を知ることが、私たちの務めです。それは世俗心でしょうか。それとも利己心でしょうか。自尊心への執着でしょうか。一番になろうとする欲求でしょうか。それとも、激しくはびこっている肉欲の罪でしょうか。神の恵みを放蕩へと変えてしまうニコライ派の罪なののでしょうか？ あるいは、大きな光や機会、特権を誤用・濫用し、知恵や宗教的知識を誇示しながら、その生活や人格がそれとは矛盾し、不道德であるという罪なののでしょうか？ それが何であれ、それが強くなり、支配的になるまで甘やかされ、育まれてきたのであれば、それを克服するために断固たる努力を払わなければなりません。さもないと、あなたは失われてしまうでしょう。」

教会で罪を
犯さないため
の方法



みだらな行いに対する解毒薬

あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。(1 コリント 6:19)

訴訟の問題について触れた後、パウロは本題である、教会内の性的不道德の問題に戻ります。なぜそのようなことがあったのでしょうか。



クリスチャンは聖さへと召されています(1 コリ6:11)。それゆえ、あらゆる罪を排除すべきです。しかし、ある人々は、自分の罪はすでに赦されているのだから、自分の体で好きなことをしても構わないと主張しました。そのため、パウロは「体は不品行のためにあるのではない」(1 コリ6:12-13)と明確に述べているのです。

彼の主張はこうだ。私たちの体はキリストの肢体である。キリストの肢体を切り離して、娼婦や姦淫の女と結びつけることはできない(1 コリ6:15-18)。

最後に、これは私たちに極めて重要な事柄について考えさせるものです。すなわち、私たちの体は聖霊の宮であり、したがって、私たちの所有物ではなく、神のものであるということです(1 コリ6:19)。神は御子の尊い血によって 私たちを贖ってくださったのですから、私たちは体と霊の両方をもって神をあがめなければなりません(1 コリ6:20)。



性的な罪が人類にもたらした惨状について
考えてみてください。

これは、クリスチャンにとってこの問題が
どれほど深刻に受け取られるべきか、
私たちに何を示しているのでしょうか。

結婚と独身

しかし、不品行に陥ることのないために、男子はそれぞれ自分の妻を持ち、婦人もそれぞれ自分の夫を持つがよい。(1 コリント 7:2)



パウロは、コリントの教会から寄せられたいくつかの疑問に答えることで、私たちがどのようにして不品行から逃れることができるかを理解する手助けをしてくれています(1 コリ 7:1)。

要するに、既婚者は配偶者と合法的な性行為を楽しむべきであり、独身者は誰とも性的関係を持つべきではない。

配偶者は、相手が不倫に走る可能性を避けるために、性的な関係を拒んではならない(1 コリ 7:3-5)。

自制心という賜物を持つ独身者は、家族の世話による制約を受けることなく、神に仕える機会をより有効に活用することができる(1 コリ 7:6-8、32-34)。

自制心の賜物を持たない独身者は、誘惑を避けるために結婚するよう努めるべきである(1 コリ 7:9)。



性に関するゆがんだ考えから、
私たちはいかに身を守ることができますか。

まちがいを犯している人々のために働く時に、どの目も
キリストに向けさせよう。まちがいを犯している人たちに
救い主のゆるしと憐れみについて語ろう。罪人が悔い改める
ように、そしてゆるすことがおできになるキリストを信ずる
ように励まそう。[...]「もし、わたしたちが自分の罪を告白
するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪を
ゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」と
いうことを、神のみことばの権威にもとづいて宣言しよう
（Ⅰヨハネ1：9）。神は、「再びわれわれをあわれみ、
われわれの不義を足で踏みつけられる。あなたはわれわれの
もろもろの罪を海の深みに投げ入れられる」との保証が、
悔い改める者にはだれにでも与えられている（ミカ7：19）。
[...] 教会は、罪人の悔い改めを感謝の心をもって受け入れ
よう。悔い改める者を不信の暗黒からみちびき出して、信仰
と義の光へ入れよう。彼のふるえる手をイエスの愛に置こう。
このようなゆるしは天において批准される。

EGホワイト (各時代の希望、第54章)